

ダニエル・カールの

消防団 たずねあるき

第3回 三重県津市

はじめに

今回たずねたのは三重県の津市です。

津市は三重県の県庁所在地で、都市という面を持ちながら、白砂青松の面影が残る海岸、緑あふれる田園と里山、森林、湖、溪流など多様で豊かな自然環境にも恵まれています。

地理的には三重県の中央部に位置し、面積は約710 km²で三重県一の広さがあり、約29万人が暮らしています。平成18年1月1日に津市、久居市、河芸町、芸濃町、美里村、安濃町、香良洲町、一志町、白山町、美杉村の10市町村が合併して、現在の姿になったということです。

歴史的には海上交易の要衝であるとともに伊勢街道をはじめとする6つの街道が通っており、日本の東西の文化、情報に接することができる土地柄でした。江戸時代には「お伊勢参り」の宿場町としておおいに繁栄したということです。「伊勢は津でもつ、津は伊勢でもつ」と伊勢音頭に歌われていることは、ご存知の方も多いのではないでしょうか。

歴史上の人物では、戦国時代の武将で築城の名手と言われた藤堂高虎が有名ですね。藤堂高虎は初代の津藩主で現在の津の町の基礎を作っ

たとも言われています。ちなみに去年は藤堂高虎が津に入府して400年という記念の年であったそうで、「藤堂高虎公入府400年記念事業」として、さまざまなイベントが行われたそうです。

津市の消防

津市の消防についてお話いたします。

常備消防は1本部、4消防署、6分署、4分遣所で、消防職員345人からなっています。

消防団は連合消防団制となっていて、津市津消防団、津市久居消防団、津市河芸消防団、津市芸濃消防団、津市美里消防団、津市安濃消防団、津市香良洲消防団、津市一志消防団、津市白山消防団、津市美杉消防団の10の消防団があります。

今回、お話をうかがった津市津消防団は、定員数475名で実員446名、18分団で組織されています。ちなみに、津市津消防団の谷口団長は、10消防団の連絡調整を行う統括消防団長に選任されているそうです。

オラも津市には何度かお邪魔していますが、津市の消防団員の方にお話をうかがうのは初



左から谷口団長、ダニエル、櫻川分団長、笠井団員（ダニエル氏を囲んで）

めてのことです。どんなお話が出るのか、とても楽しみです。

ダニエル 津に来るときは楽しみにしているものがあります。

谷口団長 それは何ですか。

ダニエル うなぎです。津はうなぎがおいしいですね。

谷口団長 津のうなぎは全国で一番おいしいと私は思っています。

それと、津はいろいろな食べ物の発祥の地でもあります。あの「天むす」というのは、津が発祥の地なのです。

ダニエル えっ、そうなんですか、あれもおいしいですね。てっきり名古屋のものかと思っていました。それじゃ、今度、名古屋に行った時に…言っときます。(笑)

谷口団長 それから「たいやき」も津が発祥の地です。

ダニエル へえーそうですか。知りません

でした。オラは甘いものには目がなくてたいやきも大好きです。

「天むすとたいやきの発祥地・津市」いい見出しになりそうですね。

津市の消防団

ダニエル 津市の消防団について教えてください。

谷口団長 津市には10の消防団があって、私が団長を務めている消防団は「津市津消防団」という名称です。

定員475名で実員446名、18分団で構成されています。

ダニエル 津市の人口は何人ぐらいですか。

谷口団長 平成18年1月に合併をしまして約29万人になりました。それまでは約16万人でした。

ダニエル 消防団員の平均年齢はどれくらいですか。

消防団たずねあるき

谷口団長 それがいぶ高くなっています。それがだいたい高くなっています。消防団員の高齢化は悩みのひとつです。

ダニエル でも、逆に言えば、経験豊富な方がたくさんいらっしゃるということでもありますよね。

谷口団長 そういう見方もありますね。ちなみに私も平均年齢を引き上げている一人です。が…(笑)

ダニエル 団長はいつごろ入団されたのですか。

谷口団長 昭和30年です。

ダニエル なんと！オラの生まれる前ですね。

津市というのは歴史のある町ですが、消防団はいつごろからあるのですか。

谷口団長 自治体消防ができたときですから昭和23年です。かつては「消防組」という名称でした。

ダニエル 過去にあった災害で印象的なものはありますか。

谷口団長 なんとと言っても昭和34年9月26日の伊勢湾台風ですね。ご存知だと思いますが、とても大きな被害がありました。

それから昭和37年の12月だったと記憶していますが、高校の校舎が全焼したことがあります。とても大規模な火災で、強く印象に残っています。

昭和48年にも雑居ビルが燃えた火災がありまして、これも大規模な火災でした。それもちょうどこの庁舎で消防団幹部会議をしていたときに発生し、窓からその現場が見えたのでびっくりしたのを覚えています。

それと昭和49年には真宗高田派本山の専修寺という市内にあるお寺の周辺で集中豪雨がありました。これは「49年7.25災害」と呼ばれていますが、とても激しいものでした。

ダニエル 洪水が起こったのですか。

谷口団長 お寺の周辺がとにかく水浸しで、大変でした。

ダニエル そういう危険なところにも消防団は出動するわけですよね。



デージー分団による多機能型消防車の点検

消防団たずねあるき

谷口団長 そうですね。それも消防団の仕事のひとつです。

ダニエル まさしく命がけの仕事ですね。

谷口団長 それでも、行かなければなりません。

昭和30年代から40年代は護岸整備などがまだ十分でなかったせいもあり、大きな災害が多かったように思います。

ダニエル 最近は昔ほどではないのですか。

谷口団長 今、この辺りで一番危険だと言われているのは東南海地震です。いつ起こっても不思議ではない状況だそうで、被害状況の予測などを聞くと、正直、恐ろしいものがあります。

ダニエル 海が近いですから地震の後に来る津波も心配ですね。

谷口団長 そうですね。県内の他の市の消防団長とそのことについて話したことがあります。どの程度の規模の津波が来るかにもよりますが、とにかく、住民の避難誘導をはじめ、やるべきことはいろいろあると思います。

台風による災害も、しばしば大きな被害をもたらしますが、天気予報などである程度の予測が立ち、ある程度の準備ができます。しかし、地震は予測のしようがありません。消防団としても、常日頃から地震に備える必要があります。

ダニエル 地震に限らず、災害に備えるには訓練が必要ですね。

谷口団長 そうですね。まず、災害現場はどのような状況になるかわかりませんから基本的な訓練で肉体と精神を鍛える必要があると思います。

それから、地域によっていろいろと考える必要があると思います。

ダニエル 地域ごとにいろいろなやり方があるというわけですね。

谷口団長 そうです。もちろん、どんな地域でも基本的な訓練はしなければなりません。すべての地域ですべての訓練を一律にするというわけにはいきません。それぞれの地域にそれぞれのやるべきことがあります。例えば、海沿いの地域と山沿いの地域では地域特性が違います。したがって、想定される災害にも違いがあります。

ダニエル なるほど、同じ津市の中でも、街中を管轄する消防団もあるし、海の近く、川の近く、山の近くをそれぞれ管轄する消防団もあるでしょうからね。

谷口団長 そういことです。合併をしてからは、津市の中の地域特性がさらに多様化したわけです。私は津市に10ある消防団の統括消防団長も務めていますが、地域の実情を知っている現場の考え方を尊重するべきだと思います。

ダニエル 消防団の活動には危険が伴うことも多いと思いますが、活動中に負傷された方はいますか。

谷口団長 以前はあまりありませんでしたが、最近では1年に1人、2人出ます。

ダニエル どのようなケガですか。

谷口団長 あわてて作業をしたために転倒したといったものがありました。

ダニエル でも、負傷するのが1人、2人というのはむしろ少ない方かもしれませんね。それだけしっかり訓練などをしてらっしゃるということでしょう。

谷口団長 そうですね、やはり基本的な動きをしっかりとやるのが重要だと思います。

消防団たずねあるき

昔と比べると、今は消防団の装備も良くなりましたが、それでも基本的な訓練をきっちりやっておかないと活動中の負傷につながりかねません。

ダニエル 先ほどのお話で平均年齢がやや高いということでしたから、あまり無理をしないということも大事だと思います。

谷口団長 体力的なこともあるでしょうが、若い団員でも緊張感もあってか、礼式訓練などで熱中症になる例もあります。ですから、肉体と精神の両方を鍛えることが大事です。

ダニエル そういった公務災害を防止するために、どのようなことに取り組んでおられますか。

谷口団長 団員に対する健康診断を実施しています。

ダニエル 健康診断で一定の基準をクリアしないと消防団員としては認めないということですか。

谷口団長 そこまでは言いませんが、再検査や精密検査が必要な場合には直ちにそれを受けるように指示をします。

ダニエル そうですか。自分の健康管理ができるわけですから、団員さんにとっても良いことですね。

デージー分団

津市津消防団では、女性消防団員がデージー分団という分団を組織して活躍中です。そして、デージー分団の櫻川分団長は総務省消防庁から「消防団員確保アドバイザー」に委任されているそうです。

ダニエル ところで、こちらの女性お二人

が所属してらっしゃるというデージー分団というのも津市津消防団の一部なのですか。

谷口団長 そうです。女性消防団員は平成7年に公募して採用しました。消防団本部付で広報やイベントを中心に活動していましたが、その活躍が認められて平成18年1月に女性消防団員だけで構成されるデージー分団が発足しました。

ダニエル デージー分団という名前には何か由来があるのですか。

谷口団長 デージーの和名は雛菊です。その雛菊に「火無効く」と当て字をして「火が無くなるのに効く」ということでデージー分団と名づけました。

ダニエル なるほど。面白いですね。

谷口団長 通常、分団は地域ごとに編成されていますが、デージー分団は女性消防団員だけの分団ということで結成されました。

ダニエル するとあなたは「デージー分団長」ということになるわけですね。

櫻川分団長 そうです。櫻川と申します。

ダニエル デージー分団は主にどのような活動をされているのですか。

櫻川分団長 当初は、女性消防団員ということでイベントの補助や防火啓発活動をするということでした。そういう活動もちろん重要で、以前と変わらず真剣に取り組んでいますが、今は、操法訓練や、消防車両の点検や車両に積載している器具の取り扱い訓練などもしています。エンジンカッター、チェーンソー、手動式の油圧カッターなどを使った訓練です。

ダニエル なかなか本格的ですね。

櫻川分団長 はい。女性消防団員でも訓練を積めば、そういった器具を使用した活動もで

消防団たずねあるき



デージー分団 資機材(小型動力ポンプ)の点検(デージー分団)



赤色灯 ヨシ!

きるということを示していけたらいいなと思っています。

ダニエル デージー分団は何名で編成されているのですか。

櫻川分団長 現在は12名で活動しています。

ダニエル 女性消防団員の活動として学校や幼稚園などで子供たちに防火の大切さをいろいろな方法で教えることがあるとお聞きしますが…

櫻川分団長 女性消防団員にもいろいろな形や活動があると思います。子供たちに防火の大切さを教えるのも重要なことだと思いますが、私たちは災害時に第一線で活動できる団員であることも目指しています。

例えば水防訓練では、スコップを持って土のうを作るという作業を男性消防団員と一緒にさせてもらっています。

ダニエル 消火の訓練などもしておられるのですか。

櫻川分団長 火災防御の訓練や消防車両の走行訓練なども男性消防団員や消防職員の方に教えていただきながら実施しています。

谷口団長 女性消防団員の活動をそういったことにまで広めたのは、櫻川分団長の功績のひとつです。

ダニエル そうですか。

ところで、分団長は「消防団員確保アドバイザー」でもあるそうですが、これはどういうものですか。

谷口団長 総務省消防庁から委任されるものです。

櫻川分団長 私は今年の2月に委任されました。仕事の内容としては、自分たちの活動について各地で講演をしたり、消防団員を確保し減少に歯止めをかけるためのPR活動などをします。

ダニエル 「こんな活動もできる」ということを紹介するということですか。

櫻川分団長 そうですね。それと、消防団というものの自体をご存知ない方もいらっしゃいますので、消防団を知ってもらうということも重要な仕事です。

ダニエル 特に女性消防団員を増やすには、分団長のような立場の方が直接お話しされることが効果的なのでしょう。

櫻川分団長 「私にできるのだから、あなたにもできますよ」ということは伝えられると思います。

ダニエル 実際におやりになっているのだから説得力がありますね。

消防団たずねあるき

櫻川分団長 普段、身近なところでも、例えば消防団のイベント会場に来たお客さんでも「この人・・・」と思った時には「消防団に入ってみませんか」と声をかけるようにしています。また、実際、それで入団してくれた団員がいますし、説明を聞きたいというありがたいお話もいただいています。

ダニエル オラはラジオの仕事の関係で消防団のお話をお聞きする機会があるのですが、消防団員確保アドバイザーの話は初めて聞きました。

消防団員確保アドバイザーになられていかがですか。

櫻川分団長 分団長とは違う責任を感じています。自分自身にもデージー分団にも喝を入れて、今までにも増してしっかりとした活動をしていかなければならないと思っています。

ダニエル 団長としては、津市津消防団から消防団員確保アドバイザーが選ばれたことをどう思いますか。

谷口団長 三重県初の消防団員確保アドバイザーですから、とてもうれしく、頼もしく思っています。

櫻川分団長 消防団員確保アドバイザーとしての講演はまだありませんが、平成18年度と19年度に「新時代に対応した消防団運営方策講座」の講師として北海道や静岡県など全国の4箇所で開催した経験があります。それをきっかけに各地の消防団と交流を持つことができました。消防団のおかげでいろいろな人とのつながりが得られました。

ダニエル 消防団員確保アドバイザーとして活動していけば、今後も各地のいろいろな消防団を知ることで見聞が広められ、新しいつながりが得られるでしょう。

櫻川分団長 そうですね。そういう経験を消防団活動に生かして行きたいと思います。

谷口団長 全国のいろいろな消防団の良い所をどんどん吸収してもらいたいですね。そしてそれを、津市の消防団に持ち帰って広めてもらいたいです。

ダニエル ある意味では津市の消防団を代表する大使でもありますね。

消防団員確保アドバイザーになられてから、まだあまり時間が経っていないということですが、今後の抱負を聞かせてください。

櫻川分団長 どんな災害に対応するにしても消防団というのは大切な存在だと思います。ですから、男女を問わず、消防団員を確保することが重要です。

私たちが、魅力のある活動をしていれば、それを見て「消防団員になってみたい」という人がきっと現れるでしょう。それを各地でPRすることで、一人でも多くの消防団員が確保できればと思っています。

ダニエル 分団長としての抱負はいかがですか。

櫻川分団長 デージー分団の団員は私にとって家族のような大切な存在です。デージー分団では「やるときはやる」をモットーに活動しています。みんなで力を合わせて、男性の消防団員に少しでも近づけるように訓練を続けて行きたいと思っています。訓練に終わりはありません。

ダニエル そちらの方はデージー分団の…

笠井団員 団員です。笠井と申します。

ダニエル お若いですね。平均年齢を下に引っ張っている方ですね。(笑)

入団されたきっかけは何だったのですか。

笠井団員 私はもともと保育園に勤めてい

消防団たずねあるき

て、子供たちに防火の大切さを教えたい、地域の防災に役立つことがしたいと考えていました。そんなとき、たまたま職場の同僚にご主人が消防団員である方がいて入団を勧められました。

災害時に一人でも多くの人を助けられるようにと思って、訓練を続けています。

ダニエル もともと消防団に興味があったのですか。

笠井団員 消防団に興味があったというよりも、やはり災害時に地域の人々を助けられる存在になりたいと思っていたことが入団した大きな理由です。

ダニエル 実際に活動をしてみていかがですか。

笠井団員 経験したことがないことばかりで最初は大変でした。

櫻川分団長 実は、笠井団員は昨年退団して

オーストラリアに1年間留学していましたが、帰国と同時に消防団にも帰ってきてくれたのです。とてもうれしかったです。

ダニエル やはり、やりがいがあるのでしょうかね。

笠井団員 やりがいもありますし、楽しくもあります。

ダニエル 地域のため、みんなのために役に立っているのですからね。

櫻川分団長 実際に役に立ったのですよね。

笠井団員 はい、自分で応急処置をしたわけではないのですが、ショッピングセンターの2階で倒れている人を発見して「大丈夫ですか」と声をかけながら救急隊の到着まで付き添っていました。消防団で応急処置の訓練を受けていなければ、そういう行動はできなかったと思います。

ダニエル そうですか。消防団は大変なこ



消防職員の指導による救助訓練の様子

消防団たずねあるき

ともあるでしょうけど、大変だからこそ楽しいということもあるのかもしれないね。

櫻川分団長 生きがいとやりがいですよ。

ダニエル そこに消防団の魅力があるということですかね。

デージー分団には主婦の方もいらっしゃいますか。

櫻川分団長 はい、います。私もそうです。

ダニエル 家庭での仕事と消防団の仕事を両立することは、なかなか大変なのではないですか。

櫻川分団長 やはり家族の理解と協力が必要不可欠ですね。特に子供が小さいうちは大変だと思います。私は、夫や子供たちにとっても感謝しています。

ダニエル 笠井団員もそういう協力的な旦那さんを見つけてください。(笑)

笠井団員 はい、そうします。(笑)

ダニエル きっと、津市内にいると思いますよ。

もしお困りなら、顔の広い団長がいらっしゃいますからね。

谷口団長 そうですね。何とかしなければいけませんね。(笑)

「消防団たずねあるき」も今回で3回目となりましたが、消防団員の皆さんは真剣に地域防災のことを考えていてユーモアもある、まじめで楽しい方たちですね。お話ししていて、いつもそう思います。

まだまだお話をうかがいたいところですが、時間が来てしまいました。

チャレンジ精神

谷口団長のお話にもありましたが、津市は

「天むす」や「たいやき」の発祥の地です。そればかりではなく、なんと「味噌カツ」や「いちご大福」も津市が発祥の地なのだそうです。

津市というと歴史のある町というイメージを持っていましたが、それと同時に新しいものを生み出す才能を育む力がある町でもあるということを知りました。

新しい何かを生み出すということは、新しいことにチャレンジするということです。そして櫻川分団長は消防団員確保アドバイザーという新しい分野に勇気を持ってチャレンジしておられるわけです。このチャレンジは、きっと実を結ぶことでしょう。

おわりに

冒頭で津市は、豊かな自然に恵まれていると言いましたが、谷口団長のお話をうかがって、それは同時に災害の多様性につながることもあるのだということに気がきました。

オラは、海、山、川といった豊かな自然の中で遊ぶのが大好きで楽しいイメージばかりを持っていましたが、楽しいイメージを持っているのも、もしもの時に備えてくれている消防団員をはじめとする皆さんのおかげなのです。

風光明媚で歴史があり、また新しいものを生み出す力もあるこの町を守っていくということは責任重大です。

でも、津市にはそれぞれの地域にそれぞれの地域防災のスペシャリスト集団である消防団があります。地域にいて、地域のことをよく知っていて、地域のために活躍している津市の消防団の皆さん、これからもがんばってください！